

けんこう静岡

第101号

平成22年
(2010年)
4月1日(木)

季刊 1部50円 年200円
(送料税込)

発行所
財団法人 静岡県予防医学協会

(本 部) 〒421-1292 静岡市葵区建徳1-3-43
☎(054) 278-7716 FAX (054) 278-7717

http://www.shsa.net

(東部事務所) 〒410-0007 沼津市西沢田729-11 ☎(055) 921-1934

(西部検査所) 〒435-0006 浜松市東区下石田町951 ☎(053) 422-7800

(総合健診センター) 〒426-8638 藤枝市善左衛門2-11-5 ☎(054) 636-6460

発行責任者 石黒 満 印刷 松本印刷㈱

学術講演「一人ひとりのがん対策」

静岡県立静岡がんセンター総長

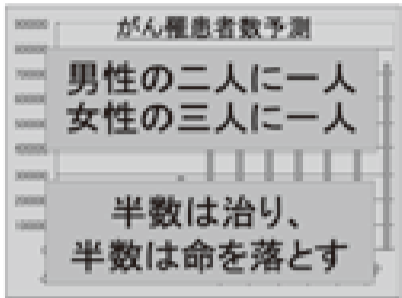
山口 建

（がん治療の現状）

高齢社会の訪れとともに、がん罹る方の数が大変増えている。現状では男性の2人に1人、女性では3人に1人が何時か、がんを診断される時代になっている。

私も含め、会場にお見えのおおよそ半数の方は、既にがんを診断されて治療したか、今、闘っているか、これから罹るかどうか、で、そういう意味でも、予防医学事業と

いうのは大変重要だ。治療については半数が治り、半数がそのがんを命を落とすというのが日本全国の平均。でき



るだけ早く見つける努力をし、早期発見ができれば、今や9割以上は治る時代になっている。それもただ単に治すだけではなく、短期間に費用も余りかけず、ほとんど痛みもなく治せる、そういう時代が訪れている。

（5年生存率と再発）

がん医療で特徴的なのが、経過観察の時期です。がんは手術が成功しても、それで完全に治ったとは言えない。何年かたった後で再発あるいは転移の可能性があるので、一般的には5年間経過を観察し、再発、転移がなければ、かなり自信を持って治ったと申し上げている。「5年生存率」というのがこの数字に当たる。

稀に、例えば、乳がんなどが5年以上たつてから再発するケースがあるので、がんによって期間が異なる場合もある。

それから5年の間に、これは、2年目、3年目、4年目ぐらいが一番多いと思うが、再発した場合には、今度は完全な治療がなかなか難しいの

で、延命を目指した治療を行い、場合によっては痛み等を和らげる終末期のケアに移行し、それで、最期は残念ながら死に至る。

ただ、最近、医療が進歩して再発しても治療に持ち込めるケースも増えてきた。逆に診断した時点でかなり進んでいて、治療を目指せず最初から延命治療に持ち込むこともまだある。そういう意味も込めて、早期発見の重要性が叫ばれている。

（がん診断は30年で様変わりした）

今の診療の流れの中でどういうものがいいのか、そして、それがどう進歩してきたのか概観すると、まずはがん検診。これは全国規模でやっているので、そう簡単に大きく変わるものではないが、着実に改善している。便の潜血反応の精度も高まったし、乳がん検診ではマンモグラフィが導入された。

精密検査の部分も大きく変わった。がんの確定診断については、画像診断は一気に進化した。血液診断も、腫瘍マーカーや遺伝子診断などはこの30年で様変わりした。

三十数年前、田舎町の父親の診療所と比べて、国立がんセンターでも医療は余り変わらなかつたが、国立がんセンター勤務の30年の間に、CTスキャンが導入され、超音波の機械も随分進歩し、内視鏡は初期の胃カメラ、盲目的にパチパチ撮るといった段階からファイバースコープで常に観察しながら病変を探すというように大きく変わった。それから、MRIそして、PETが入ってきてというように、診断機器は非常に進歩した。

腫瘍マーカーも新しいものが出てきたし、それから遺伝子診断、この評価は分かれるが、がん医療を専門とする我々からは素晴らしい進歩だと思える。現時点では、遺伝子診断が、がんの医療の中で活かされているのは、すべてのがんの1%程度を占める遺伝性がんの分野だと思

う。いずれにしても、こういうものの組み合わせによって、がん診断は非常に進歩した。その結果、早期がんが発見されるようになり、治療率も20〜30%の時代から今50%近くまで上がったという歴史を辿ってきている。

（治療を目指す治療）

治療を目指す治療の主役は手術、放射線、抗がん剤だ。手術では患者さんのクオリティ・オブ・ライフ、生活の質をできるだけ保つような手術が、目標とされてきた。放射線治療でもより精度の高い治療法が研究され、陽子線治療のような粒子線治療や小線源治療も実用化され

た。また、抗がん剤については、手術後の術後補助化学療法に抗がん剤を使うことで、治療率を高められるという大きな進歩がこの数年の間に胃がん等であった。真の意味での集学的治療の成果が着実に得られつつある。

早期に発見され、治療可能ながんの治療は大きく進歩したと言える。

（延命を目指す治療）

再発・転移が見つかり延命治療に移るときの抗がん剤についても、種類は非常に増え、副作用もかなり軽減され、あるいは副作用対策もかなりうまくできるようになった。それから、単なるがん細胞を殺すという抗がん剤だけではなく、分子標的薬というがん細胞の性格に立脚した新しい抗がん剤も進歩した。こうして、一般の方にとっては、抗がん剤はすごく進歩したのだなと思いたいと思う。医療の立場からそのとおりだが、そこには限界もある。それは、再発したものを完全に治して、治療させるという力は、最新の抗がん剤も残念ながら持っていない。確かに、白血病、悪性リンパ腫など一部のがんでは抗がん剤による治療が実現している。しかし、大多数のがんでは、再発をすると、治しきることが、今の技術でも困難だ。そこで、やはり早期発見が大事になる。

（医学は科学、医療は物語）

緩和ケアは私達が国立がんセンターに入った段階では、ほとんど影も形もなかった領域だが、この30年間に大きな進歩を遂げた。できるだけ患者さんの尊厳を保ち、家族の心のケアにも配慮しながら最期のときを迎えていただくよう努力をする、そういう手立てが、今進歩している。



治せるものは上手に治す。それもほとんど苦しみがないように、後遺症もないように治せるようになった。しかし、難治がんや再発・転移の状態で見つかったがんについては、今も昔も、医師やコメディカルが大変苦労しているし、患者さん、御家族も大変つらい思いをする。そういう状況が残念ながら残っているのが現状だと思う。だからこそ、しっかり検診を受けて早く見つけてくださいというお願いをしているのだ

年一回は健康チェックを！

健康はあなたの財産です
すこやかな明日のために

人間ドック 脳ドック

総合健診センター
ヘルスポート
〒426-8638 藤枝市善左衛門2-11-5
TEL 054-636-6460
FAX 054-636-6465
☎ 0120-39-6460